

うだちから

「うだちから」とは、宇陀に由来からある地域コミュニティの力(宇陀力)のこです。このコーナーでは、市が取り組む「まちづくり」やNPO団体などを紹介します。
 問 まちづくり支援課 ☎82・3910/IP ☎88・9094



▲サプライズ花火

ほんのひととき、夏の風情を楽しんでももらいました。今年は、コロナ禍のなか、感染症対策のため、にぎわいイベント等が中止され、例年に比べ人出が減りましたが、ライトアップされた建物をゆっくり味わってもらうことができたのではないのでしょうか。

1 町並みライトアップとサプライズイベント

宇陀松山まち協

8月20日から22日、松山地区の夏の風物詩となった町並みライトアップが、重伝建地区としての街の魅力づくりと人々の交流をテーマに開催しました。

町屋の軒先をはじめ杜寺の参道・境内などに照明が施され、家々の門口がろうそくで灯されました。今回、20日19時30分から5分間サプライズイベントとして75発の花火が打ち上げられ、



▲きれいにライトアップされた本膳小路

また、隣接するうだアニマルパークでは、21・22日の両日、4千個のろうそくを灯す「ほんのりあんどん」も開催されました。



▲いつもと違った町並み

2 みんな元気に!

夏休みラジオ体操

椋原地区まち協

今年は、小学校の夏休みがお盆の時期の11日間だけとなりました。例年開催しているラジオ体操も新型コロナウイルス



▲元気よく、みんなでラジオ体操

コロナウイルス感染防止対策のため、放送されるラジオ体操を各家庭で行ってもらうことにしました。スタンプカードの実施確認は家族の方に押しってもらうことにし、夏休み最終日の8月23日に1回だけ椋原が丘のひまわり会館前広場に集まってもらいました。
 朝6時30分までに子どもたちが約80人、大人の方が約20人集まり、みんなが手を広げて間隔を空け、元気よくラジオ体操を行いました。ラジオ体操は10分間ほどの短い時間でしたが、大勢の子どもたちの明るい笑顔が見られました。

体操が終わると子どもたちは3か所に別れて、持ってきたスタンプカードにハンコをもらい、参加賞の記念品を嬉しそうに受け取っていました。



▲スタンプと参加賞をもらう子どもたち

3 吉野町集落支援員とアドバイザーの意見交換会

まちづくり支援課

8月28日、吉野町集落支援員と地域づくりアドバイザーの意見交換会を開催しました。

吉野町集落支援員は4人で、地域の実情や時代に対応した地域の維持活性化対策の推進を目的として、地域自治協議会を設置。その組織を支援するために集落支援員が設置され今年で2年目です。

意見交換会では、新型コロナウイルスの影響で計画していた事業が次々と中止になったことについて、

補助金の使道や今後の協議会の進め方等の質問があり、お互いの協議会について様々な意見が出されました。

また、活動内容や地域が抱える課題はどこも同じで、地域の方とのコミュニケーションの取り方や、独居老人の引きこもり等を増やさないための取り組みなどについても情報交換することができました。

他の地域アドバイザーと交流をすることは、宇陀市の取り組みや活動など改めて確認することができ、またスキルアップにつながっていくと思われました。今後も様々な地域と情報交換しながらまちづくりの在り方を学んでいきます。



▲まちづくりについての意見交換会



サネカズラ

各地の山や道端の樹木に巻き付いている植物に、赤いぼんぼりのような果実が下がっているのが目につきます。赤いたくさんさんの果実が特徴的なので、サネ(種)の多いカズラの意味で、サネカズラの名前が付けられました。

昔はこのつるを採集し、水で炊き出して、茎の粘液物質を水に溶け出させ、その液で髪を洗いました。この液で髪を洗った男性が美しくなるというので「ピナン(美男)カズラ」という別名もあります。ひび割れ、あかざれ

も、この染液で洗うとよくなります。

果実を採集し、花托を除いて乾燥したもの、の五味子を600ミリリットルの水で30分以上煎じて、ろ過した液を3回に分けて服用すると、滋養強壮、強精、鎮咳、去痰、止瀉(下痢止め)、健胃の各作用があります。ぜん息や気管支炎などの喉の痛みを治すには、生の果実を煎じて飲むとよく効きます。果実を焼酎漬けしておき、半年以上たつたものを飲むと強壯強精剤になります。



▲山に採取に行けないという人は、つるを挿し木にしたり、果実を植えたりしても、苗は簡単に作れます。

※当市で「薬草活用講演会」をいただいた村上光太郎先生の連載より一部抜粋

薬草逍遙(やくそうしょうしようよう) 毎回「薬草」に関わる内容を連載でお届けするコラムです。

問 商工業課 ☎82・5874 / IP ☎88・9075